



教職員支援機構 採用1年目の職員にインタビュー

——皆さんの共通点の一つは、令和5～6年度に採用された入職一年目の職員だという点です。ただ、藤崎さんは新卒で、白石さんと浅野さんは転職組と聞いています。

白石 そうですね。大学在学中に教育実習へ行った際、教員より指導案や教材内容などのコンテンツを考えるほうが向いていると感じました。前職の学校法人では、教職員をサポートする学校事務の仕事をしていましたが、夫の職場が変わったのをきっかけに転職することになりました。独立行政法人教職員支援機構(NITS)を志望したのは、前職同様、教育関連で、かつ教職員をサポートできるという点が大きかったですね。



令和5年度採用

教職員支援機構
教職員の学び協働開発部研修マネジメント室
(研修マネジメント係)

浅野 由華 アサノ ヨシカ

浅野 私はもともと、市役所で出前講座や講演会に関する仕事をしていて、教育委員会事務局では先生方と一緒に仕事をしてきました。NITSはこれら2つの経験を生かせる職場だと思って、藤崎さんは、どうしてここを？

藤崎 大学生の頃に中高受験の塾講師をしていたのですが、教育者で居続けることは自分にとってかなりハードルが高かったです。でも、教育関係に関わる仕事をしたいという思いが強くて……。就職活動では、国立大学法人等のパンフレットを隅々まで目を通したことで“教育”と一言でいっても、その仕事は、とても多岐に渡っていることを知れました。その中でも全国の教職員をサポートできるNITSの、その独自性というか、個性に惹かれました。

——NITSでは普段、どのような仕事を担当されているのですか？

白石 私は人事係として、採用関係や安全衛生管理を主に担当しています。入職する方々が最初に接する窓口なので広報的な立ち位置でもあるし、各種入職手続きはもちろん、精神的なサポートもできるので、とてもやりがいを感じています。また、メンタルヘルス研修やハラスメント防止研修など、働きやすい職場環境づくりに貢献できることも人事係の魅力の一つです。

藤崎 私が所属する連携推進係では、NITSが主催する研修事業の運営、教育委員会や文科省などの外部機関との連携、各機関との共同事業の推進を担当しています。複数の研修を並行して担当するので右往左往してばかりですが、現場の教育者の熱量を肌で感じられるので、モチベーショ

ンは上がりっぱなしです。新卒一年目ですが、すでに充実感を覚えています。

浅野 藤崎さんと重なる部分がありますが、NITSが主催する研修事業の運営、研修の企画立案、外部機関との連絡調整等に携わっています。今年主催した高校と特別支援学校の事務職員を招いて行った研修では主担当を任せられました。研修を主催する度に、全国津々浦々各地域の学校教育の特色を聞けるのは、この業務の醍醐味です。あと、私たちNITSは、対話を重視した研修を目指しているということもあって、職場でも対話に割く時間がとても多い。これは転職して一番の発見と驚きでした。

——具体的にどのような対話をされているのですか？

浅野 PLCという名の“対話の場”を開催しています。自由参加だし、誰でも興味関心のあるテーマを提案できます。辿り着く“解”も人それぞれ。1つのテーマを色々な切り口と立場で捉えられるようになります。

白石 研修に参加した人たちが職場のスタッフと体験を共有できるようにと、QRコードを読み込むと研修動画が閲覧できる名刺サイズの“学びのおすそわけカード”を作ったんですが、これは「NITSのお土産」というテーマのときに考えたアイデアを形にしたものなんです。対話しかり、新しいことにチャレンジする精神や姿勢を、とても大切にしている職場だと転職してきて強く感じています。



藤崎 オリジナルグッズとして、小さい団扇も作りましたね。結論がでない時もありますが、立場や役職に関係なく意見を出し合うことができるのは、新人にとっては貴重な場だと思います。

浅野 “でも”“しかし”といった否定からは入らない。“みんな違っていい”が愉しめる。そんな風土が醸成されている職場だと思います。

——風通しのよい職場なのですね。

藤崎 はい！ ワンフロアにすべての課が集約されているので垣根がなく、また、知らず知らずのうちに顔見知りが増えていくのでコミュニケーションが取りやすい。仕事で困ってもすぐに上司にアドバイスを求められるような席配置にもなっているので成長を感じやすいです。

浅野 程よくざわざわしていて、カフェのような穏やかさと和やかさがあるから業務に集中しやすいです。

白石 産前産後休暇、勤務時間割り振りの変更など、一通りの各種制度は整っています。育休や子の看護休暇も男女関係なく取得しています。お昼休みには体育館でバドミントンをやったり、仕事終わりにフットサルをやったりしている人たちもいます。



令和5年度採用

教職員支援機構
総務部総務企画課(人事係)

白石 佳奈子 シライシ カナコ

——スタッフ同士の距離感も絶妙な感じですね。ところで皆さんは、これからのキャリア形成をどのように考えているのですか？

白石 NITSでは、30代半ばまでは数年ごとのジョブローテーションを通してNITS全体におけるそれぞれの課の役割を把握します。その後、中期的なスパンで組織の中核として仕事に関わるようになります。私自身は、組織運営全体を俯瞰できるスキルと能力を高めつつ、教職員をサポートする業務に関われたらと考えています。

藤崎 先のことを考える余裕はまだ持っていませんが、まずは目の前の仕事を着実にこなしていく。これが最優先です。ゆくゆくは人生の幸せに繋がるような職場環境を整える。そんな業務に携われる実力を付けたいです。

浅野 事務職員に向けた研修を担当していますが、理解が追いついていない部分もまだまだ多い。私も白石さん同様、様々な業務をすることで視野を広げ、最終的には、研修の企画立案や運営に還元できたら嬉しいですね。



令和6年度採用

教職員支援機構
教職員の学び協働開発部連携推進課
(連携推進係)

藤崎 裕太 フジサキ ユウタ